

南アルプス 黄蓮谷右俣 アイスクライミング

小暮

【日時】 2011年12月23日（金）～25日（日）

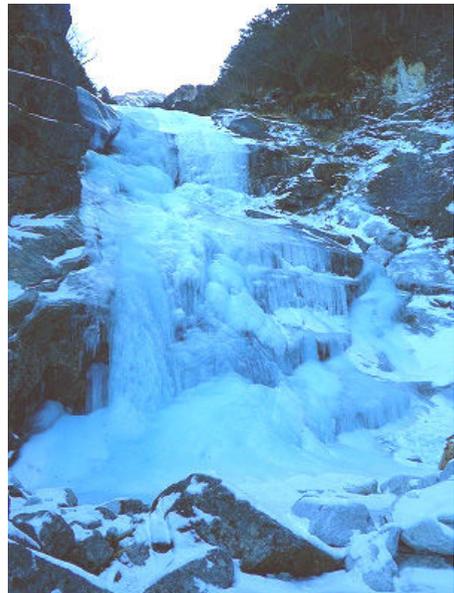
【メンバー】 小暮、笹川

黄蓮谷は、タイミングが難しい。1泊で駆け抜けているパーティもあるが、余裕を持って登るには、やはり3日間の日程で行きたい。過去のWEBでの記録検索でも、時期が早く凍っていなかった、遅くて雪で埋まってしまってラッセルに終始したという記録や氷結状況が悪いことによる敗退も多い。今年は、12月に入ってからの降雪がほとんど無く、心配していた山行直前の南岸低気圧も南海上にうまくそれてくれた。ラッセル無し、氷の露出もバッチリで、期待していたナメ氷をぐいぐい登っていく遡行をすることが出来た。

初日は、竹宇駒ヶ岳神社から、長い黒戸尾根をゆっくりと登る。登り始めから、ずっと雪は無く、枯葉に覆われた登山道を辿る。難所である刃渡りも雪が少なく、あっさりと通過することが出来た。五合目の近くになって、ようやく雪が出てきた程度でほとんど夏道と変わらない。この様子なら、谷の中も雪が少なく氷の露出が高いだろうと期待できる。

谷への下降は、五合目小屋跡の奥に続いている踏み跡に従っていくが、土が凍結して滑りやすい状態になっており、崖に落ちたらおしまいなのでアイゼンを着ける。しばらくは踏み跡も明瞭だが、次第に荒れて分かりづらくなる。後ろから来た単独の方と一緒に道を探してしばらく行ったりきたり。左側の沢沿いに降りるのがどうやら正解らしいのだが、台風などで倒木が多く、踏み後が途切れている。何度も迷い、強引に倒木を乗り越えたりして、なんとか下降した。どうもこの下降路は年々荒れてきているらしく、以前はあった赤布もほとんど見当たらなかった。後から聞けば、最近では七丈小屋をベースに左俣をアタックするパーティは、ここを下降せずに小屋のすぐ下の尾根を降りて坊主の滝付近に出るルート取りをするらしい。

黄蓮谷出合の手前には、見覚えのある岩小屋と焚き火跡があり、快適そうなのでここに泊まるか一瞬悩むが、翌日の行動時間を考慮して、予定通り二俣まで向かう。黄蓮谷に降りた最初



坊主ノ滝

の滝はたつぷりと水を持った釜が出ているので、左岸のしっかりした巻き道を使う。滝上の平坦な樹林帯で一休みしていると、後ろから2-3パーティやって来たので慌てて出発。坊主の滝に着き、ここからようやく登攀開始だ。坊主の滝の氷結はバッチリで、右側はやや薄いので中央の登り易そうなところから取付く。難度はⅢ～Ⅳ級程度だが、長いのでロープを引いて登り、50m一杯になったところで、ピッチを切ってつるべで登る。後続パーティがコンテで左側から登ってきて、上に抜けていった。軽装で30mシングルロープしか持ってきていないようで、あれなら早いと納得。



氷のナメが綺麗だ

坊主の滝上の10m滝を越えると、ナメ滝となっており、その上が二俣だ。幕場を探しながら歩いていたが、なかなか良い所が無いので心配だったが、右俣側の基部が平坦なので、ここにツェルトを張った。ストック、石等を使っていつもの沢登りでやるようにしっかりと設営が終わるころにはすっかり日が暮れてしまった。後続の2人パーティと単独の方もやって来て、すぐ近くにツェルトを張っていた。ツェルト泊は寒くて寝られないのではないかと心配していたが、思ったよりも寒くなくて意外と快適だったので今後もツェルトで軽量化するのも良いかもしれない。

明るくなる頃には出発しようと準備すると、隣の2人パーティは既に左俣に取付いていた。単独の方も左俣のようだ。右俣の最初の滝は私が一応ロープを引いて登り、笹川を確保する。その先も傾斜の緩いナメが続くので、コンテスタイルでロープを引きずって登って行くが、岩に引っかかり取り回しが面倒なので、途中でロープはしまっ



氷床を快適に遡行する

てそれぞれフリーで登ることにする。奥千丈ノ滝も、積雪がほとんど無く、氷のナメに覆われていて感激してしまう。奥千丈ノ滝は、時期が遅くなると、単なる雪の壁となってしまうラッセルに終始するらしいが、今回は青いナメで見事な景観となっている。2mの小滝はお助け紐を使って越えると烏帽子沢が左から出合う。更にナメ滝を越えていくと、インゼル状となる。休憩をしていると後続パ

一ティが登ってきた。七丈小屋からの日帰りらしく荷物が軽いようなので先に行ってもらおう。5mほどのナメ滝を二つ登り、10mの滝は凹角をバランスクライムで越える。この先はしばらく雪面登行となり、沢の左岸につけられたトレースを辿る。



奥ノ滝 2段目の登攀

夏に沢を遡行したときも源頭部の詰めが長かったと記憶

していたが、冬も同じだ。あとはひたすらトレースを辿って登る雰囲気になっている。こうなると全装備を担いだスタイルの遡行は辛い。

正面を見れば、最後の奥ノ滝の3つの連瀑が見える。下段は立っていて25mIV+程度に見える。中段35mIV、上段10mIIIといった感じだろうか。トレースは3つまとめて左岸から巻くようになっているが、時計を見ればまだ2時前なので、登ってみようかと思ひ、1段目を巻き上がったところからトラバースして2段目の滝に取付く。坊主ノ滝よりは少し難しい感じだが、IV級程度か。荷物が重いのでふくらはぎに堪える登りだ。この余計な登りで、少し笹川に疲れが出てしまったようだ。更に2パーティが後続で来たが、トレースに従って巻いたので先に抜けていった。3段目の滝は、左側から巻き気味に越えるが、岩が露出していてかえって悪かった。

あとはひたすら山頂まで登るだけだが、雪も深くなってきていて、トレースはあるもののなかなかしんどい。一步一步じっくりと登って、ようやく稜線に出た。天気も小雪が舞っていて、稜線の風が厳しい。あとは雪の飛ばされた登山道を辿り、甲斐駒ヶ岳山頂に到着。なかなか感慨深い。寒いので写真を撮って早々に下降する。七丈小屋にはなんとか日没直前に到着することが出来た。

我々の泊まった第二小屋は、ほとんどがアイスクライミングの方だった。同じ嗜好の方ばかりなので、情報交換で話も弾み楽しい夜だった。やはり左俣が人気で、今日は小屋から13パーティが出発したらしい。沢中に泊まれたパーティが18時頃にびしょぬれで戻って来られた。同宿のガイドパーティは我々が寝た後、22時頃に戻ってきた。順番待ちが結構あったようだ。小屋はストーブががらがん焚かれおりお湯も貰える上にビールも買って快適だったが、夜は暑くて却ってあまり良く眠れなかった。

3日目は、篠沢七丈瀑で遊んで帰るつもりだったが、笹川が初日に出来た靴擦れが



痛いとのことで、そのまま下山することにした。素晴らしかった山行を振り返りながらゆっくりと登山道を降った。今回は氷結具体といい、積雪の少なさといい、これまでに無い位の素晴らしい条件に恵まれ、期待していた氷の回廊を辿る会心の山行が出来て大変満足している。

【行程】

- 12/23 竹宇駒ヶ岳神社
(6:55) ~ 笹ノ平
分岐 (9:05) ~ 五
合目 (12:25) ~ 黄
蓮谷 (14:35) ~ 二
俣 (16:00)
- 12/24 二俣 (7:25) ~ 烏
帽子沢出合
(9:55) ~ 稜線
(15:00) ~ 甲斐駒
ヶ岳 (15:25) ~ 七
丈小屋 (17:00)
- 12/25 七丈小屋 (7:40)
~ 五合目 (8:10)
~ 竹宇駒ヶ岳神
社 (12:40)

【地図】 甲斐駒ヶ岳、
長坂上条

黄蓮谷右俣 アイスクライミング

